



## ふるさと会よりご報告

会長(高松市観光大使)

池田 克彦



我が家の屋上に鯉のぼりを上げて孫を迎えましたが、早くも初夏の兆しです。会報も36号を数えました。先般、仏生山にある県立図書館に所蔵頂いている会報を見てきました。3号からありましたからもう発行して18年になります。

さて早速ですが、県市等の広報やホームページから地元の様子とふるさと会活動をご報告します。

1. 県30年度当初一般会計予算4615億円(前年度+2億円)せとうち田園都市の新たな創造の実現:かがわ創生総合戦略関係事業:人口減少・活力向上対策として、若者の県内定着の促進(3億700万円)、先端技術を活用した産業振興(2800万円)、子育て県かがわの一層の充実(1900万円)、働き方改革の実現(5400万円)、四国の中枢拠点機能強化の着実な推進(4億7100万円):活力あふれる香川を確かなものとして、県内中小企業への戦略的支援(4500万円)、観光客へのおもてなしの充実・強化(4700万円)、農畜水産業の競争力の強化(5億4400万円):安心につながる香川を確かなもの:未来に向けた笑顔で暮らせる香川をたしかなもの:等が計上されています。瀬戸大橋開通30周年行事、オリーブ植栽110周年記念(9月頃)、ハマチ養殖90周年記念(11月頃)、かがわ文化芸術祭60周年記念(オープニング行事)、来年(2019年)瀬戸内国際芸術祭推進事業(準備)、香東川総合開発事業(柘川ダム)62億3000万円があります。
2. 市30年度当初一般会計予算1533億円(前年度▲105億円)特色として、共生社会ホストタウン、スマートシティ、観光振興や国際交流、子ども・子育て支援策の更なる充実。重点取り組みとして、健やかにいきいき暮らせるまち(75億8386万円):心豊かで未来を築く人を育むまち(17億1498万円):産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち(7億8501万円):安全で安心して暮らせ続けられるまち(2億8044万円):環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち(12億7103万円):市民と行政がともに力を発揮できるまち(6億2104万円)を計上しています。
3. 10月安原最明寺所蔵品・文化財を県・市役所関係者のご尽力で専門家の鑑定をしていただきました。11月12日第41回塩江もみじまつり(行基の湯前広場)3月25日塩江美術館で塩江物語展が開催されました。
4. 4月市の組織機構見直し、塩江温泉郷の活性化を図るなど屋島・塩江地域の観光振興エリアマネジメントを一元に行う観光交流課内に、観光エリア振興室を新設。大規模災害発生等緊急事態発生に備え5月7日から高松市防災合同庁舎・危機管理センターが開庁(市役所西側)。魅力にあふれ、人が輝く創造都市の将来像を目指した第2次高松市創造都市推進ビジョン(2018年度~2023年度)が策定された。3月定例市議会で、老朽化した塩江分院の建て替え新病院付属医療施設整備スケジュールの質疑がされ、現在行っている医療機能精査、今年度予定の地質調査を進める中で工事内容等を決定し出来るだけ早く具体的整備スケジュールを示すと市側は答弁しました。
5. 10月9日上西で借用している松茸山で松茸狩りを地元有志の人と実施、不作でシメジとマツノコを収穫。今年より同松茸山を5年延長借用。11月6日都内東京プリンスホテルで第99回東京香

川県人会に参加(配布資料にふるさと会広告掲載)12月9日都内池袋で別海・ふるさと会と忘年会開催。1月7日藤沢塩江温泉観光協会会長要請で奈良県吉野郡天川村役場訪問地域おこしを伺った。1月27日都内池袋新年会(役員会)開催30年度事業検討。2月14日高松市内香川県遺族連合会でインパール作戦地慰霊の講演(遺族代表黒川氏同行)2月16日82番寺山田蔵人牛鬼退治根来寺参拝。2月17日高松市内川東で藤本元塩江町助役叙勲祝賀会参加。4月7日京都市内で関西ふるさと会会員と同窓会開催。4月9日都内三田さぬき倶楽部で関東笑狸会20周年記念行事に参加(知事・市長・松平お殿様にご挨拶)4月20日都内新橋内幸町ホールでシャンソン歌手高久(旧別所)由紀子さんコンサートに参加。5月19日都内三田さぬき倶楽部で役員会開催併せさぬきふれあいコンサートに参加(松平お殿様ご臨席)

6. 役員会を開催し28年度・29年度の経費入支出纏めと30年度の事業計画(案)を立案しました。



## 特集 ふるさとの文化財

ふるさと会会長 池田 克彦

平成28年度町の冊子に「塩江町文化財めぐり」があります。弥生時代から塩江町に人が住み稲作を行い、戦国時代は別子八郎や山田蔵人を輩出し、高松藩主松平頼重公の別荘があり、偉大な儒学者藤澤東峯先生が登場、昭和にはガソリンカーが走り塩江は大いに賑わったとあります。これら多くの文化的遺産が、塩江町に沢山残っており、城跡・遺蹟・史跡・神社・寺院・記念物・石碑・地蔵尊・武具(刀剣・甲冑)等が長い年月をかけて現在まで守り伝えられており、これはみんなの貴重な塩江町の宝だと記しています。この誇りである宝を未来に維持・保全し語り伝えていく必要があるかと思えます。

今回の特集は塩江町・ふるさとの文化財としました。ご寄稿を夫々戴きましたが本紙面を借りてご寄稿者に対し厚く御礼を申し上げます。

文化財は、出しゃばらない。でも、びっくりさせられる。



元香川県教育長 細松 英正

文化「ざい」は、文化材であり、文化在であり、時には文化済や文化罪になることも無いとは言えないが、地域に語り継がれ、受け継がれて、地域の誇り・宝物としての文化財となる。多くの文化材

は、文化在として、そこに住む人々の生活の中で、生活の一部として当たり前のように存在し、ともすれば、今ある人は、そのありがたみを知らずに生きている。

文化材は、決して、自分から、積極的に自己アピールしないものであり、それだけに、人にその存在・価値を見い出され、自然と愛おしまれ、大切にしようとする多くの人の気持ちに育まれて、文化財となるものである。また、決して、行政の「〇〇指定」という晴れがましいものを自ら求めようとはしない。

ある文芸評論家が、伝統についてであるが、「今必要なことは、伝統を新鮮にし、蘇らせ、その魅力を次の世代にも伝えていくことであり、そのためには、まず『驚く』ということが大切である」旨、ある雑誌に書いていたが、「伝統」を「文化財」に置きなおしても、十分説得力があると思う。

先般、戦国末期の古文書にも登場する弓の名人・山田蔵人が晩年、甲冑などを奉納したと伝えられる最明寺で、これら遺品の調査に立ち会う機会を得た。かなり朽ちて物も多かったようには見受けられましたが、鏑矢の形をした矢じりからは、周りの空気を切り裂く当時の響きが聞こえて来そうで、とても驚かされた。

そして、驚かされているといえば、会報誌「なにしょんな」を長期かつ継続して発行し続けているとともに、ふるさと塩江の内外で新たな絆を発掘し続けている、塩江ふるさと会の活動がある。ふるさと会そのものが、塩江を代表する文化財といっても過言ではない、そのようにさえ思う。池田会長様をはじめ塩江ふるさと会の皆様の、今後ますますのご健勝とご多幸を祈りつつ、これからは出来れば、一緒に驚き続けていたいと願う。(高松市内在住)

## 内場城の謎

香川県埋蔵文化財センター長

西岡 達哉



内場池の西方に所在する「城山(標高449.3m)」は、その山名のとおり「内場城」の故地である。

廃城後の荒廃は著しいが、山頂から尾根伝いに階段状の平坦地(曲輪跡)や、尾根を切断する溝(堀切跡)などが多数見られる。なかでも、山頂一帯の20箇所以上の曲輪跡群と、尾根の鞍部や先端部の土橋跡を伴う堀切跡が特徴的である。

しかも、城跡の範囲は南北約700mに及んでおり、高松城跡(高松市)の史跡指定範囲(最大幅600m)を上回る規模であることも特筆される。

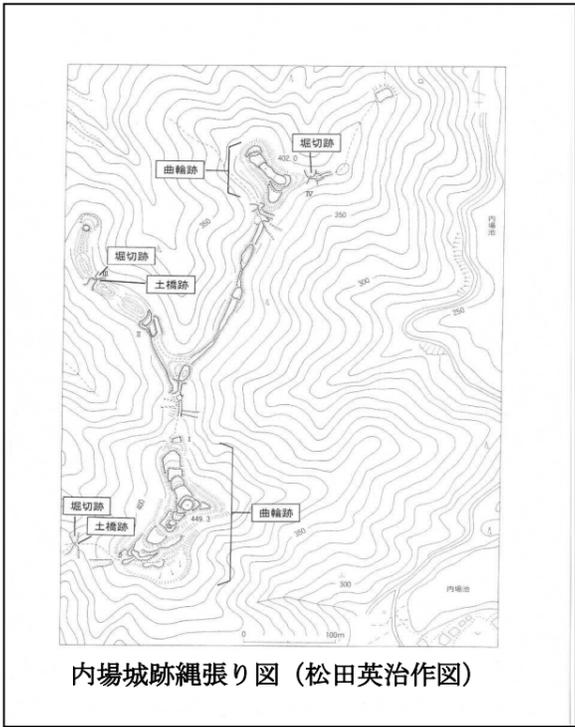
ところが、同城については、古文書などの記録が現存しないために、築城者や攻城戦などは不明な点が多く、平安時代末期から室町時代にかけて藤澤氏や川田氏が居城し、戦国時代に長宗我部氏の攻撃によって落城したことがわずかな伝承である。

しかしながら、曲輪跡や堀切跡の造作が巧妙なことや、城域の規模が尋常でないことは、城跡が平安時代や室町時代頃の未発達段階のものではないことと、藤澤氏や川田氏のような地方の小領主によって経営されたものではないことを暗示している。一体、「誰が」この香川県有数の造作の巧妙さと規模を誇る城郭を経営したのだろうか。

その謎を解く手がかりは、城跡の位置と伝承の中の長宗我部氏の存在にあると考える。まず城跡の位置は、徳島県境の相栗峠から高松市に至る幹線道沿いであり、人や物の行き来を掌握するための絶好ポイントである。古くから徳島県から阿讃山脈を越えて香川県へ進軍するときの橋頭保に位置付けられる軍事拠点であったことが推察される。

そこに長宗我部氏の影が見え隠れする。伝承の中で、内場城廃城の要因とされている同氏による攻城戦については、今も本県下に根強い「長宗我部憎し」の感情が創造した空想物語の可能性があるが、同氏が同城を根拠地として讃岐侵攻を有利に進めたことは決して幻想に留まらなると考えられる。巧妙かつ大規模な城の経営者としては、四国屈指の岡豊城(南国市)などの経営者である長宗我部氏が最も相応しいと考えられるからである。

内場城跡こそが、長宗我部氏の讃岐侵攻の足がかりの城郭として、本県や四国地方の戦国史に新たなページを開く可能性を秘めた貴重な歴史遺産であることを強調したい。



内場城跡縄張り図 (松田英治作図)

### ふるさと塩江町の文化財



歴史保存会顧問 藤澤 保

塩江町には弥生時代ころから人々が住み、奈良時代には行基菩薩により温泉が発見され「塩江」という地名が生まれました。戦国時代には弓の名人別子八郎や山田蔵人が活躍し、江戸時代

になると高松藩主松平頼重公が別荘を建て、偉大な儒学者藤澤東咳先生が生まれ、昭和になるとガソリンカーの運行により塩江は大いに賑わいました。これら文化的遺産が塩江町にはたくさん残されています。これらの史跡、記念物や石碑などの文化財は地域の風土と歴史の中で生まれ、長い年月をかけて現在まで守り伝えられています。これらは私たちみんなの宝です。私たちにはこの大切な文化財をより多くの人々に知ってもらい守り保存し後世に伝えていかなければならない使命があります。先日、歴史資料館では特に子どもたちに理解してもらおうと「藤澤東咳先生ものがたり」を発行しました。また、コミ協により高松市無形民俗文化財に指定されている「樺川たたら踊り」と塩江で踊られている「しおのえ踊り」の振り付けが教本とDVDで制作されました。そして、本年度は昭和4年に開通しわずか12年で消えていった塩江温泉鉄道、このガソリンカーの復元と詳細なジオラマでマップを作成するという計画も検討されています。また、藤澤東咳先生ものがたりのDVD化。そして秋には、藤澤氏の一人として大変興味深い、藤澤氏の祖といわれている藤澤新太夫光高の居城「内場城跡」について研究されている西岡達哉先生によって講演会が開催される予定です。これからも塩江の文化財保存活動にぜひご協力をお願いします。(高松市内在住)



### 塩江の踊りの保存に協力をお願い



早井 幸子

ふるさと会の皆さま、お元気でしょうか。塩江町では6月27日に町民ふれあい運動会が行われます。今年度は中学校全校生徒と大人たちが【塩江踊り】を、小学校全校生徒で【たたら踊り】を踊る予定です。中学校では毎年、新一年生に運動会前

の体育の授業1校時50分の時間を取って【塩江小唄・一合まいた・合飲の湯の町】の三曲を習得して貰って出場しています。小学校の【たたら踊り】は藤沢秋義先生や藤沢安雄さん等、先人のお力もあつ

て、平成9年、【高松市無形民俗文化財・樺川たたら踊り】として指定を受け、樺川たたら踊り保存会も結成されましたが、樺川ダムの建設による住民の流失や少子高齢化で保存会のご苦労も大変と思います。先日、塩江コミュニティ協議会が課題解決応援加算事業で制作した「塩江町みんなの踊り」のCD・DVD・冊子が保存と発展に役立ってほしいと思っています。小学生のたたら踊りは、昨年平成29年11月の高松市青少年健全育成事業発表アトラクションとして、参加する子を放課後子ども教室で募集すると「1地域の踊りを何でせないかんの」と言う高学年の意見に賛同されてしまい、「踊りませう」と言って来てくれたのは3年生の内3名だけ。同じ3年生の家を訪ね家族にも頼んで6名、その妹2名を加えて合計子ども8名で【踊る子ども会】が発足しました。衣装も揃えて11月の発表会は、「かわいかった」と大好評。それをみた樺川ダム建設の関係者から申し込みがあつて、3月の樺川ダムの定礎式に、先導で保存会と共に踊りました。定礎式の来賓方からも感心され褒められて、4月からの校長先生のご方針もあり、運動会に全校で踊ることになりました。たたら踊りは1地域のものではなく、塩江の宝の一つです。今は先生方もみんなして、傘を回しながら練習中です。小学校も中学校も、これ



からず一つと毎年続けて練習し踊って、ふるさと塩江を愛する心を育て持ち続けてほしいと思います。ふるさと会の皆さまも機会あるごとに「塩江の踊り、いいね」を連発してください。季節がらお身体大切にいつまでもよろしくお願いします。(高松市塩江町在住)



### 塩江町地域おこし協力隊員村山です

村山 淳



昨年8月に塩江町地域おこし協力隊に着任しました、村山淳です。この会報に紙幅を割かせていただけるということで、私が塩江にきた経緯とこれから進めていく事業を簡単に書こうと思います。私は福島県いわき市出身で、着任直前まで一橋大学大学院に在籍し、歴史学や言語学、文学などを研究していました。修了後、故郷のような谷あいの町に住みたいと思い日本中を探して塩江町を見つけ、協力隊として赴任することになりました。赴任して9ヶ月が経ち、ようやく塩江の現状がわかってきて、町おこしの提案をすることができるようになりました。年度が変わっていくつかのプロジェクトを立ち上げているのですが、その中から今回は2つ紹介したいと思います。まず「ガソリンカー復元プロジェクト」。こちらは塩江



美術館学芸員の小田有紗さんから提案をいただき、香川大学創造工学部と香川高専の協力のもと進めています。今年度内にガソリンカーの正確な模型を作り、それを元に来年度以降、アート化やイベント化を含む様々な企画を中長期的な視点で立ち上げていく予定です。

2つ目は「上西サーカス AIR プロジェクト」。こちらは一般社団法人瀬戸内サーカスファクトリーと共同で、上西小を中心にサーカスの滞在制作施設を作るといふものです。

折々、みなさまのお力をお借りすることもあると思います。ぜひ、応援していただければ嬉しいです。これからもよろしくお願ひいたします。



### 事務局よりお知らせ

- 1) 30年度事業予定をご案内します。
- ①会報36号(春)37号(秋)発刊予定します。
- ②10月28日(日)10:00より塩江町歴史資料館開館2周年記念行事で講演会を塩江コミュニティーセンターで開催、県埋蔵文化財センター長西岡先生の塩江の戦国時代の城「内場城」についてご講演があります。
- ③10月28日上西で借り上げた山で松茸狩りを予定します。
- ④塩江新米を販売支援(会員宛新米募集します)
- ⑤東京・別海ふるさと会との交流(9月秋刀魚祭り・10月産直・12月忘年会を予定)予定です。
- 2) 松平頼武様(松平お殿様)が塩江温泉に行きたいと申された事を塩江温泉観光協会長にお伝えし対応のお願いをしています。
- 3) 樺川ダム工事の定礎式が3月実施されました。



- 4) 上西の奥の湯温泉を保存再建できないかの運動がされています。皆さん応援をお願いします。



- 5) 30年度ふるさと会員会費納入をお願いします。¥2,500 郵便局扱 口座記号00150-2 口座番号196649 加入者名(口座名)首都圏ふるさと会(添付振込用紙で) 又は みずほ銀行橋本支店 普通口座 2091725 口座名高松・塩江ふるさと会宛。

### 編集後記

暑い5月が終了する時期に会報が出来ました。6月9日ホテルまつりが実施されます。



今夏は暑い予想ですがご自愛されますようご祈念致します。次号は今秋予定です。

(編集人 小川奈々)